

—砂田明一人芝居『天の魚』からの始まり—

家中 茂

プロフィール

1954年 東京都墨田区生まれ。1980年～「不知火座」砂田明一人芝居・舞台監督。1982年 東京大学文学部卒業。1995年 有限会社「真南風」設立に参画。2000年 関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程単位取得退学（2016年 博士（文学）取得/熊本大学）。2001～4年 沖縄大学地域研究所専任所員、2005年～現在 鳥取大学地域学部教員。
専攻：村落社会学・環境社会学。commons論、住民組織論。

本日の水俣学講義について

- 水俣とのご縁をいただいて、とくに砂田さんの一人芝居から得たことをつうじて、その後、自分のなかで追求してきたことについて、いま携わっている学問研究とのかかわりでお話させていただけたらと思います。
- 水俣をつうじて学ばせていただいたことの基本が、自分のいまやっていることの土台になっていると思われまふ。学問的方法、もしくは、学問的姿勢ということかもしれません。
- 前半は、砂田さんの一人芝居にかかわりをもった経緯と芝居の旅のこと、後半は、その経験を基軸とした学問研究への展開—「生成するcommons」や「心意」についての問題関心—とさせていただきます。

配付資料

- ① 「砂田明一人芝居『天の魚』からの始まり」（本日の水俣学講義レジュメ）。
- ② 「それがはじまりだった—自主講座『公害原論との出会い』」（2007. 日本ボランティア学会誌 2006年度学会誌 特集2「ボランティアとして生きる—宇井純さんを偲んで」）
- ③ 「立ち現れる世界」（2007. 石牟礼道子全集『月報13』／石牟礼道子他, 2013, 『花を奉る—石牟礼道子の時空』藤原書店）。
- ④ 新石垣空港建設計画（年表）
- ⑤ 「新石垣空港建設計画における地元の同意」（1996. 『年報村落社会研究』第32集）
- ⑥ 「里海と地域の力—生成するcommons」（2014. 秋道智彌編『日本のcommons思想』）
- ⑦⑧ 砂田明一人芝居関連資料
 - ⑦-1 詩「起ちなはれ」（1970）
 - ⑦-2 「鳥の見た苦海浄土・水俣一昭和二十八年」
 - ⑦-3 「水俣乙女塚縁起」（1984）

⑦-4 楽譜 主題曲「いのちのうた」、草の訴え「こころぼろぼろ」

⑧現代夢幻能「天の魚」556回の軌跡

参考文献

- 砂田明, 1975, 『祖さまの郷土 水俣から』講談社.
- 砂田明, 1983, 『海よ母よ子どもらよ一夢勸進の世界』樹心社.

1. 「天の魚」との出会い

1977年夏 水俣実践学校（水俣生活学校の前身）。川本輝夫さん公訴棄却判決。

1980年2月 浅草「木馬亭」公演。井の頭線沿線の稽古場にて（時枝俊江さん岡村春彦さん宮本成美さん）。佐藤真さんら。紀伊国屋演劇賞特別賞。

1980年～ 「不知火座」砂田明一人芝居「海よ母よ子どもらよ」勸進行脚に同行。

草の根の住民運動ネットワーク。公害反対運動・有機農業運動、仏教者（真宗）・キリスト者らの活動。

第1部「大道芸 海の胎」砂田明作詞作曲 主題曲「いのちのうた」、草の訴え「こころぼろぼろ」。

1983年夏 フィリピンにて、アジアキリスト教協議会主催・アジア民衆演劇ワークショップに参加（フィリピン、タイ、スリランカ、インド、台湾、日本ほか）。

- 『天の魚』 江津野老と姉さんのやりとりをみているうちに、いつのまにか自らが姉さんになって江津野老の語りをうけとめている。
- もう一つの世界を生きる「転生」。天井桟敷の水俣の霊たち。鎮魂（招魂）の儀式。浄瑠璃・説教（薩摩琵琶）。夢幻能の形式（死者しか登場しない。生者はみえない）。
- 演劇空間の創出 → 手をつかめるような「気の塊」。
- 「不知火座」一人芝居。勸進元とつくる。会場舞台設営・第1部「大道芸 海の胎」。
- 天の運行（自然）と人の営みのうみだすもの。飛び火して、交歓する。個として受けとめる。発心。詩「起ちなはれ」。
余分なものをそぎ落とす。岡村春彦さんら演劇人の共感・支援。
- 一人芝居：坂本長利「土佐源氏」（原作：宮本常一）、新屋英子「身世打鈴シンセタリオン」、渡辺美佐子「化粧」（こまつ座）。豊田勇造、カラワン楽団の冒険（アジア民衆演劇）。
cf. こんにやく座（林光）、上海バンスキング（斎藤憐・自由劇場）、竹富島種子取祭・芸能奉納。

2. 石垣島白保サンゴ礁「魚湧く海」との出会い

1983年秋 沖縄県石垣島白保サンゴ礁埋立計画（新石垣空港建設計画）。

砂田明さん長尾顕彰さん（京都常寂光寺）の基金による「琉球新報」意見広告、漁業権訴訟（熊本一規さん）、クストー協会への訴え（アイリーン・スミスさん）、海と女たちの会。

3つの方針＝①およそあらゆるメディア／国内外の注目、②サンゴ礁の科学的調査／国際世論の喚起、③漁業権の徹底理解。

1987～89年 石垣島に暮らす。（同時期のこと）水俣チッソ前座り込み、佐藤真さん小林茂さん『阿賀に生きる』、鶴見良行さん中村尚司さん「アラフラ海航海」。

1995年 有限会社「沖縄手ヌ花・食と工芸 真南風」（魚住けいさん夏目ちえさん）。砂田さん長尾さんへの返済を白保海人の採った天然もずくを食べていただくことで、沖縄の有機農産物を全国の自然食流通へ（大地を守る会、らでいっしゅぼーや、パルシステム生協連合会、使い捨て時代を考える会 etc.）。

- 白保公民館にて、新石垣空港建設阻止委員会委員長の語りに耳傾けているおばあたち
→「天の魚」とおなじく、手でつかめるような「気の塊」。口説き（クドッチ）。
- 「海は部落の命」という言葉に込められたことをどう表現するか。「シマの情けの世界」。
cf. 宮本常一『忘れられた日本人』「対馬にて」、きだみのる『気違い部落周遊紀行』。
- 漁業法理解をつうじて、むらに会う。
慣習（海の入会）としての漁業権。法人のマントを被せる。実在的総合人。
- 「金はいらない、海がいる」漁業補償金不受理。（共同漁業権「総有の権利」/「全員一致」の原則）
漁業権がなくなるのはいつか（公有水面埋立法「埋立同意」「着工同意」）。
- 「地元の同意」が争点。「地元」とは。

3. 村落社会学「生活論」・環境社会学「生活環境主義」との出会い

1991年～ 鶴見良行・中村尚司ゼミ（龍谷大学大学院）「民際学」、鳥越皓之ゼミ（関西学院大学大学院）に通う。（京都 CDI、琵琶湖研究所→鳥越皓之・嘉田由紀子, 1984, 『水と人の環境史—琵琶湖報告書』）

1993年 関西学院大学大学院社会学研究科（社会人入学）。

1996年 「新石垣空港建設計画における地元の同意」『年報村落社会研究』第32集。

- 鳥越皓之, 1988, 「環境権と本源的所有一共同体論から環境問題への接近」桜井徳太郎編『日本社会の変革と再生—共同体と民衆』弘文堂／鳥越皓之, 1997, 『環境社会学の理論と実践—生活

環境主義の立場から』有斐閣.

→ 白保で見聞きしたことが学術論文となっている（驚き）.

➤ 所有の本源的性格にもとづく権利

「歴史をふりかえるとき、なぜ平和を希求する農民や漁民が、ときにあのような騒憂をくわだてたりしたのであろうか、という疑問がわく。・・・人民が本来的にもっている「所有の本源的性格にもとづく権利」が否定されたとき、それに抵抗する以外にいかなる道が残されていようか。近くはたとえば、水俣がそうであった」（鳥越1997:60） / （家中2007:91）

→ 歴史をつうじて、土地所有の管理の主体は、天皇、貴族、武家、私的権利を有する者というように入れ替わってきたが、一貫して、その土地に住む者の権利は認められてきた。それが、「働きかけに応じて権利が発生する」という所有の本源的性格にもとづく権利である（共同占有権）。近代的な所有、すなわち、私的所有が「あるか・ないか」の「排他的独占的」権利であるのに対して、所有の本源的性格にもとづく権利は、働きかけに応じて「濃淡のある」権利として現れる。

→ そのことを、村落社会学研究の蓄積のうえに論証している。

→ 「海は部落の命」という言葉の学術的裏づけ。その土地に住む者の権利。

➤ 国学系譜の社会学 鳥越皓之, 2002, 『柳田民俗学のフィロソフィー』 東京大学出版会
国学 → 民俗学/新国学 → 村落社会学「生活論」 → 環境社会学「生活環境主義」
「もののあわれ」 → 「心意」 → 「生活規範/生活意識」

学問における実践とは（問い）。人々の切実な問いに応える。

➤ 生活の立場分析、「心意」心を通して対象を知る、生活規範/生活意識、所有論（本源的所有論）、ライフヒストリー（生活構造論）、学問における実践とは（問い）。

➤ 論文のなかの「語り」として記録する → ドキュメンタリー（映画、写真、文学、演劇）。水俣の表現者たち。 ★配付資料参照

➤ 石牟礼道子全集『月報』 「立ち現れる世界」。「悶え神」人は我が身一つの人生しか生きられない。

➤ アクチュアリティ actuality、生命論的差異／ビオス bios とゾーエー zoe、述語的な自己（モノとコト、中動態/聞える、見える、生れる）。 （木村敏/精神病理学・臨床哲学）

➤ 情報とは、生命体にとって意味あるもの。情報は、生命体にとって意味作用をもたらす。（西垣通/基礎情報学）

4. 研究実践

(1) 水産資源管理・水産経済学研究者と「漁業漁村の多面的機能」

「漁村の多面的機能とEcosystem Based Co-Management」 (科研費基盤研究(B)/2004-2006年度/
代表：山尾政博)

家中茂, 2009a, 「自然の資源化にともなう地域資源の豊富化—沖縄県座間味村および恩納村の事例から」 山尾政博・島秀典編著『日本の漁村・水産業の多面的機能』北斗書房.

(2) 人類学研究者と「資源人類学」

「資源の分配と共有に関する人類学的統合領域の構築領域」 (科研費特定研究領域/2002-2007年度/代表：松井健「自然の認知と加工」班)

「生業と生産の社会的布置」 (国立民族学博物館/2007-2009年度/代表：松井健)

家中茂, 2007, 「社会関係のなかの資源—慶良間海域サンゴ礁をめぐって」 『自然の資源化 (資源人類学第6巻)』 弘文堂.

家中茂, 2012, 「里海の多面的関与と多機能性—沖縄県恩納村漁協の実践から」 松井健他編『生業と生産の社会的布置—グローバル化の民族誌のために (国立民族学博物館論集第1巻)』 岩田書院.

(3) 生態学研究者と「地域環境知」

「地域主導型科学者コミュニティの創生」 (JST-RISTEX「科学技術と社会」/2008-2012年度/代表：佐藤哲)

「地域環境知形成による新たなコモنزの創生と持続可能な管理」 (総合地球環境学研究所/2012-2016年度/代表：佐藤哲)

家中茂, 2018a, 「生業から生まれる知識と技術—里海づくりと自伐型林業」 佐藤哲・菊地直樹編著『地域環境学—トランスディシプリナリー・サイエンスへの挑戦』 東京大学出版会.

家中茂, 2018b, 「モズク養殖とサンゴ礁再生で地方と都市をつなぐ—沖縄県恩納村」 (比嘉義視・竹内周と共著) 鹿熊信一郎・柳哲雄・佐藤哲編『里海学のすすめ—人と海との新たな関わりを紡ぐ』 勉誠出版.

(4) 林業政策研究者と「自伐型林業」、地域福祉研究者・NPOと「多世代共創」

「『自伐型林業』方式による中山間地域の経済循環と環境保全モデルの構築」 (科研費基盤研究(B)/2015-2017年度/代表：家中茂)

「生業・生活統合型多世代共創コミュニティモデルの開発」 (JST-RISTEX「持続可能な多世代共創社会のデザイン」研究開発領域/2016~2019年度/代表：家中茂)

家中茂, 2014a, 『林業新時代—「自伐」がひらく農林家の未来』 農山漁村文化協会 (佐藤宣子・興梠克久との共編著) .

(5) 生活論/生活環境主義 「生成するコモنز」

- 家中茂, 1996, 「新石垣空港建設計画における地元の同意」『年報村落社会研究—川・池・湖・海 自然の再生 21世紀への視点』農山漁村文化協会第32集.
- 家中茂, 2001, 「石垣島白保のイノー—新石垣空港建設計画をめぐる」井上真・宮内泰介編著『コモンズの社会学—森・川・海の資源共同管理を考える』新曜社.
- 家中茂, 2002, 「生成するコモンズ—環境社会学におけるコモンズ論の展開」松井健編『開発と環境の文化学—沖縄地域社会変動の諸契機』榕樹書林.
- 家中茂, 2005・2006, 『地域の自立 シマの力 (上・下)』コモンズ (新崎盛暉・比嘉政夫との共編著)
原田正純, 2005, 「現場からの学問の捉え直し—なぜ、いま水俣学か」.
宇井純, 2005, 「やわらかい技術の必要性」.
- 家中茂, 2009b, 『景観形成と地域コミュニティ—地域資本を増やす景観政策』農山漁村文化協会 (鳥越皓之・藤村美穂と共編著) .
- 家中茂, 2014b, 「里海と地域の力—生成するコモンズ」秋道智彌編『日本のコモンズ思想』岩波書店.
- 家中茂, 2018c, 「居住者の視点から森林林業を考える—アンダーユースの環境問題への所有論的アプローチ」鳥越皓之・足立重和・金菱清編著『生活環境主義のコミュニティ分析』ミネルヴァ書房.

(6) 地域学について (鳥取大学地域学部での取り組み)

- 家中茂, 2008, 『地域政策入門—未来に向けた地域づくり』ミネルヴァ書房 (藤井正・光多長温・小野達也との共編著) .
- 家中茂, 2011, 『地域学入門—〈つながり〉をとりもどす』ミネルヴァ書房 (柳原邦光・光多長温・仲野誠との共編著) .
- 第4章「生活のなかから生まれる学問—地域学への潮流」で「水俣学」に言及.
- 家中茂, 2019a 近刊, 『新版地域政策入門—地域創造の時代に』ミネルヴァ書房 (小野達也・藤井正・山下博樹との共編著) .
- 家中茂, 2019b 近刊, 『地域とクリエイティビティ (仮)』ミネルヴァ書房 (野田邦弘・五島朋子・小泉元宏との共編著) .